

私立 二松学舎大学

取組名称 無業者5%未満を達成する「キャリア教育」と就職支援の再構築

取組担当者 キャリアセンター長 金子 茂

1. 本学の概要

二松学舎大学は、1877(明治10)年10月10日、漢学者であり明治法曹界の重鎮でもあった三島中洲により漢学塾二松学舎として創立されたのが始まりであり、1928(昭和3)年、二松学舎専門学校を設置し、1949(昭和24)年大学に移行した。

現在は、文学部 国文学科・中国文学科、国際政治経済学部 国際政治経済学科の2学部3学科に2,971名の学生が学んでいる。キャンパスは、九段キャンパスと柏キャンパスとがある。

本学では、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献することを使命としている。

2007(平成19)年10月10日、創立130周年を迎えた。

2. 本取組の概要

本学では毎年、卒業生の12%が無業者である。これを5%未満とするため、正課科目「キャリア教育」の充実と就職支援を強化する。

「キャリア教育」では、会社経営者及び本学卒業生による講義を更に取り入れ、社会で働くことの意義と必要な能力について1年から3年まで段階的に修得させる。

就職支援は、1年から3年までをキャリア初級生・中級生・上級生と位置付ける。初級生は、キャリア基礎能力検査結果を基にした過去の振り返りと大学教育への能動的受講態度を養う。中級生は、職業への興味と適応能力検査を基に、論理的能力と社会人基礎力の基礎を養う。上級生は、就職活動準備実践編学年として、就職活動をするにふさわしい能力の完成を図る。更に就職支援の一環として、100社以上の企業による校内説明会や、大学役職教員による企業との情報交換

会の拡大化を行う。

以上の取組により、無業者5%を実践し、社会に信頼される大学を目指す。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組においては、正課授業である「キャリア教育」の充実と各学年ごとの就職支援講座の新たな実施により、卒業後のキャリアデザインに能動的に取り組む能力の充実を図るとともに、各講座内における段階的内容を通じて、考える力・論理的能力・対人能力等大学生としての学士力を高めるものである。

(2) 達成目標

本取組では、「卒業後の進路実現」を切り口にした大学生にふさわしい能力(考える力・論理力・対人能力等)の充実と就職することを目標として、キャリア講座における理解度については、講座ごとに就職未内定者について徹底して調査を行うとともに就職支援を行うことで、大学生としての能力と無業者5%未満の達成を図ることを目標としている。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容・成果

本取組は、本学学生の就職対応力の一層の充実・発展を目指すものであり、具体的内容と成果は以下のとおりである。

(i) 内容

①「キャリア教育①・③」中、外部招聘講師による講義と演習の実施は、単位制の正課科目である「キャリア教育①(1年次生対象)」・「キャリア教育③(2年次生対象)」の中で、企業の経営者による講義等を全9回実施する。

②「キャリアデザインI(入門編)(1年次生対象)」の開講は、キャリアコンサルタントやキャリアアドバイザー

イザー等による「就職」を前提とした、将来を描くための入門講座である。「自己と気づき（過去の振り返りと将来）」等を中心としたグループワークを実施。1年次生としての就職に対する心構えを形成させる。

③「キャリアデザインⅡ（初級編）（1年次生対象）」の開講は、②「キャリアデザインⅠ（入門編）（1年次生対象）」の受講者を対象としたもので、専門講師による「自己と気づき（過去の振り返りと将来）」から、「自己実現へのアプローチ」を中心とした講義と演習を通じて基礎を形成させる。

④「キャリアデザインⅢ（中級編Ⅰ）（2年次生対象）」は、昨年度1年次生対象に開講した「就職入門講座」受講生を中心に開講する。将来の職業を見据えた業界研究・職種研究等の講座内容。グループワークを中心に受講生の自主性を伸ばすものとなっている。

⑤「キャリアデザインⅣ（中級編Ⅱ）（2年次生対象）」は、④「キャリアデザインⅢ（中級編Ⅰ）（2年次生対象）」の受講生を対象とした講座で、ここまでの大学生活を振り返るとともに、自己分析を通じて「自己の確立」を図り、3年次生で開講される正課科目である「キャリア教育④」並びに就職実践講座である「就職特別講座」へのアプローチとする。キャリアコンサルタント・キャリアアドバイザー等の専門家が担当する。

⑥「キャリアデザインⅥ（上級編Ⅱ）（3年次生対象）」は、企業の採用筆記試験の中で、本学学生が最も苦手としている「SPI」「SPIⅡ」等の対策を専門家による演習を全7回実施するものである。

⑦「ビジネスマナー講座（3年次生対象）」は、就職活動準備として重点を置いているものであり、社会人としての常識マナーを専門講師により演習形式で全8コマ学ぶ実践講座である。

⑧「就職基礎学力UP講座（2年次生対象）」は、企業の採用筆記試験で出題される本学学生が苦手としている「数学」対策に特化した講座である。本学学生は、「数学」に対して苦手としているのが現実であり、就職活動を見据えて、外すことのできない講座である。

⑨「企業との就職・採用に係る情報交換会」は、毎年本学学生を採用する企業を中心に100社以上の企業の採用部署役職者と本学の就職を担当する教員組織であるキャリア委員並びに学長以下の教員役職者が一堂に会して、本学の学生の採用に結び付ける交換会である。今年度は11月5日に実施する。

⑩「企業による合同業界説明会」は、3年次生を対象とした会で企業の採用担当者だけでなく、在籍して

いる本学OBによる企業の合同業界説明会として開催。毎年100社近い企業が参加する。第1回目は12月17日に実施する。

⑪「企業送付用就職パンフレットⅠ」の作成は、企業への本学の就職全般に対する体系的な取組をPRするパンフレットとして、毎年2月に3,000部作成する。使用用途は求人票依頼時に使用するだけでなく、就職活動をする学生に、各企業の採用試験時にも持参させる。

（ii）成果

①「キャリア教育①③」中、外部招聘講師による講義と演習の実施により、単なる講義ではなく、講師の人間性と、人生・社会・企業に対する考え方に触れることにより、受講生各自が将来の進路を考えるための糧となるとともに、「卒業後の進路」を見据える大きな指針となり、今後の学生生活を有意義に送る効果が高まる。

②「キャリアデザインⅠ（入門編）（1年次生対象）」は、大学に入学して半年経過した自己を考えることを前提としての講座であり、半年間の自分の学生生活をふまえた「自己と気づき」を中心としている。グループワークを中心としており、1年次生として「就職」を考える入門として受講生の成長を図ることができる。

③「キャリアデザインⅡ（初級編）（1年次生対象）」は、②「キャリアデザインⅠ（入門編）（1年次生対象）」受講生を対象としており、「自己と気づき」から「自己実現へのアプローチ」を目指しており、「就職」に対する基礎の形成が確立され、2年次生として自覚した学生生活を送るとともに授業に積極的に取り組む姿勢が大いに涵養される。

④「キャリアデザインⅢ（中級編Ⅰ）（2年次生対象）」は昨年度1年次生対象に開講した「就職入門講座」受講生を対象としており、職種研究等の講座内容で、就職準備として必要不可欠な業種・職種について学ぶことにより、より具体的な「就職の目標」が形成される。

⑤「キャリアデザインⅣ（中級編Ⅱ）（2年次生対象）」は、④「キャリアデザインⅢ（中級編Ⅰ）（2年次生対象）」の応用講座として開講。ここまでの大学生活を振り返るとともに、自己分析を通じて「自己の確立」を図り、3年次生で開講される正課科目である「キャリア教育④」並びに就職実践講座である「就職特別講座」へのアプローチとして位置付けている。3年次10月にスタートする実際の就職活動に向けての十分な準備ができる講座として大きな成果が得られる。

⑥「キャリアデザインⅥ（上級編Ⅱ）（3年次生対

象)」は、企業の採用筆記試験の中で、本学学生が最も苦手としている「SPI」「SPIⅡ」等の対策を専門家による演習を全7回実施するものである。ここまでの対策講座を実施している大学はあまり例がなく、SPI、SPIⅡ等の合格対策としての成果が期待される。

⑦「ビジネスマナー講座（3年次生対象）」は、就職活動準備として重点を置いているものであり、社会人としての常識マナーを専門講師により演習形式で全8コマ学ぶ実践講座として開講する。採用担当者へのアンケートで、就職活動時に重要視する項目である、第一印象、立ち居振舞、挨拶、歩き方、表情、コミュニケーションのとり方等について、実践形式で学ぶことにより、面接時のポイントを上げることは確実となり、就職活動に大いに寄与する。

⑧「就職基礎学力UP講座（2年次生対象）」は、企業の採用筆記試験で出題される、本学学生が苦手としている「数学」対策に特化した講座である。特に文学部生については、国語力は全国模試でも上位に位置付けられているが、反面、「数学」に関しては、平均点以下であり、このままでは筆記試験での不利は避けられない状況である。そこで、中学校・高校時代の数学を徹底的に鍛えることにより、文系学生での数学力の一層の向上が図られ、それにより学生の筆記試験の合格率を大幅に引き上げることが可能となる。

⑨「企業との就職・採用に係る情報交換会」は、毎年本学学生を採用する企業を中心に100社以上の企業の採用部署役職者と本学の就職を担当する教員組織であるキャリア委員並びに学長以下の教員役職者が一堂に会して、本学の学生の採用に結び付ける交換会である。体系的に構築された①～⑧の講座受講生への就職先確保という観点からも、非常に重要な事業であり、就職率UPに直結するものである。

⑩「企業による合同業界説明会」は、3年次生を対象とした事業で、企業の採用担当者だけでなく、在籍している本学OBによる企業の合同業界説明会として開催。毎年100社近い企業が参加している。

世界経済低迷による我が国企業の採用抑制を背景とした、現3年生の就職環境は未曾有の厳しさが予想されている。本学の教育とキャリア教育を体系的に学習した学生にとって、OB在籍企業にチャレンジすることは、就職活動の一步として非常に重要な事業である。

参加企業への就職率は毎年70%であるが、この比率を80%にまで高めることが、採択されたプログラムの達成につながるので、十分な準備のもと実施する。

⑪「企業送付用就職パンフレットⅠ」作成は、企業

へ本学の就職全般に対する体系的な取組をPRするために不可欠なものである。今年度も前年同様3,000部を作成する。

使用用途は、求人依頼だけでなく、就職活動を行う学生の企業訪問時や採用試験にも持参させることにより、本学のPRをより図ることが可能となる。

(2) 取組の実施体制

本取組の実施体制は、文学部・国際政治経済学部 of 全面的な協力の下、キャリアセンター長を中心にした「キャリア教育」担当教員とキャリアセンター事務部の緊密な連携により、正課科目である「キャリア教育」並びに「キャリア支援講座」を分担して行うことで、1年次の基礎ゼミナールから3年次ゼミナールまでの担当教員の協力が可能な体制となっている。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、キャリアセンター長、文学部並びに国際政治経済学部選出のキャリア委員6名、学務局長、キャリアセンター事務部長で構成するキャリアセンター会議において、実施した講座ごとに受講生へのアンケート並びに講師報告書をもとに検証を行い、次年度への資料とする。

6. 本取組の実施計画等

本取組の実施計画は以下のとおりである。

- (1) 9月～12月「キャリア教育①・③」中、外部
招聘講師による講義と演習の実施
- (2) 10月～11月「キャリアデザインⅠ（入門編）（1
年次生対象）」開講
- (3) 12月～2月「キャリアデザインⅡ（初級編）（1
年次生対象）」開講
- (4) 10月～11月「キャリアデザインⅢ（中級編Ⅰ）
（2年次生対象）」開講
- (5) 12月～2月「キャリアデザインⅣ（中級編Ⅱ）
（2年次生対象）」開講
- (6) 10月～2月「キャリアデザインⅥ（上級編Ⅱ）
（3年次生対象）」開講
- (7) 10月～11月「ビジネスマナー講座（3年次生
対象）」開講
- (8) 2月 「就職基礎学力UP講座（2年次生
対象）」開講

- (9) 11月 「企業との就職・採用に係る情報交換会」実施
- (10) 12月 「企業による合同業界説明会」(3年次生対象)実施
- (11) 2月 「企業送付用就職パンフレットI」の作成。作成部数3,000部

以上を実施する。なお、上記事業(1)～(8)項目は1年次からスタートして3年次まで体系的な講座として構築しており、本事業の成果を検証するには、最低でも3年間の継続が不可欠である。且つ(9)～

(11)の事業は、(1)～(8)の事業の成果を反映させるためにも必要不可欠な事業である。

採択された学生支援プログラムである「無業者5%未満を達成する「キャリア教育」と就職支援の再構築」を達成するためには、2009(平成21)年度単年度で終了する事業ではなく、2010(平成22)年度以降も継続すべき事業である。2009(平成21)年度はそのスタート年としての位置付けである。

このプログラムは、私立小規模大学のモデルケースに成り得るプログラムである。